

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



移送・出所される方は、必ずご一報ください。

表紙：風っ子さん

2018

7
月号

- | | | | |
|----|------------|----|-------------|
| 2 | 理事長挨拶 | 20 | Lovely DAYs |
| 5 | 社会の声 | 21 | 健康相談窓口 |
| 14 | ささきみつおコーナー | 22 | 特別コーナー |
| 16 | 育児日記 | 23 | つぶやき！ |
| 16 | 塀の中のたより | 23 | 行事予定 |

理事長挨拶

暑い日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。西日本豪雨で被災された方々のことをお祈りいたします。

受刑者の皆さんは、熱中症にならないように水分を補給してください。作業中は、刑務官によっては水分補給の許可をしてくれないことがあります。「うがいをお願いします」と言いつて許可をもらってください。



風っ子さん

受刑者の皆さんへ

一部の刑務所において、キリスト教などの宗教による個人教誨を実施させない、という問題が起きていますが、これは明らかに憲法違反です。受刑者の皆さん、是非、願箋にて、教育統括宛に個人教誨を求めてください。願箋には、「**個人教誨願**」**聖書の学びがたく、キリスト教の教誨師による個人教誨をお願い致します。教育統括殿**」という風に書いて提出してください。

また、古本募金「きしやぼん」について、五冊以上であれば着払いで郵送できることになっているのに、それを一部の刑務所がさせない問題が起きています。さらに、受刑者とマザーハウスの双方が身元引受人申請を提出しているにも関わらず、マザーハウスでは許可しない、という嫌がらせをしている刑務所があります。申請を出した全員について不許可です。どうしても納得がいかないので、上川陽子法務大臣、および、自民党再犯防止推進特命委員長である田中和徳衆議院議員と面談して要望書を提出したところ、矯正局と保護局から、議員と私

のところへ回答があり、「きちんと実施している（＝審査に偏りはない）」ということでした。

そこで、個人教誨ができない場合、古本募金「きしやぼん」への着払い郵送ができない場合、さらに、マザーハウスが身元引受人となることができない場合は、マザーハウスへの手紙と合わせて、左記のところにも状況を訴える手紙を出してください。

☆上川陽子衆議院議員事務所

秘書 西谷康祐様

(〒100-8982)

東京都千代田区永田町2-1-2

第二議員会館305)

☆田中和徳衆議院議員事務所

秘書 細田将史様

(〒100-8982)

東京都千代田区永田町2-2-1

第一議員会館1010)

私は、受刑者の回復のためでしたら、全力でサポートします。そして、法律の中でできることはするべきだと思っています。法務省がそれをしないのはキリストの愛に反する行為です。私の神様に心から祈ります。

マザー・テレサは、私に、「目の前の人を愛しなさい。それはとても難しいことである」ということを教えてくださいました。その、目の前の人を愛する愛を実践することが大切です。今の日本の教会の大きな罪である「無関心」は、キリストの愛に反することであると感じています。

最近、東京学芸大学や國學院大学、龍谷大学、専修大学、早稲田大学と、学生の皆さんにお話しさせていただく機会がたくさんありました。刑務所の問題、社会復帰の問題、無関心という問題についても、話をさせていただきました。学生の皆さんは真剣に聞いてくださり、大きな勇気をいただきました。



おたふくさん

クリスチャンの皆さんへ

ある大学生が、刑務所にいる受刑者の方に送った内容を紹介させていただきま
す。相手の受刑者の方を仮にAさんとし
ます。

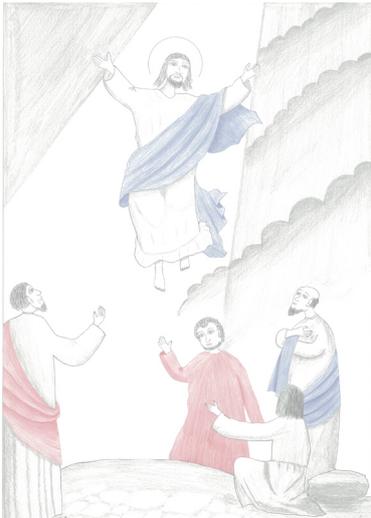
☆

子どもをつくることについて、Aさんは、
人を殺すことが罪なら、生まれた瞬間
から死に向かう命をつくることも罪だと
考えていらつしやるのですね。私は、子
どもをつくることは大変素晴らしいこと
だと思っています。子どもは、神様が愛
してつくるものなので、私も大切にしたい
です。

クリスチャンにとっては、神様がいて、
天国があって、地上の命は永遠の命につ
ながるものなので、新しい命が生まれ出さ
れることはとても素敵なことです。大き
なお恵みです。だからこそ、子どもを太
切にしなければならぬし、大人になっ
た人に対しても、いくつになつた人に対
しても、神様がずっとその人を愛してい
るように、私も人に対して誠実で大切に
向き合いたいです。

神様がいることを信じられなければ、
天国も永遠の命もないですから、「命は
虚しい」「新しい命をつくるのは罪だ」と
いう考え方になってしまうのかもしれない
ですね。神様を信じる前の私も、生き
ることが虚しくて仕方なかつたので…。で
も今は、マザーハウスと出会って、Aさん
と出会って、目標もできて、生きる希望
が毎日あります。神様がいてと確信して
いるから、希望を失うことはありません。
絶望しても、マイナスの気持ちに全て染
まってしまうことはありません。

「いずれ死ぬなら、生きることに何の意
味があるのか」。死んで終わり、全てな
くなるのであれば、生きていても虚しい
だけです。でも、そうではないんです。
死は終わりではなく、通過点です。
死んで全部なくなるわけではないんです
よ！



死刑囚

理事長の五十嵐さんは刑務所に三回も
入っていて、人生の半分を刑務所で過
しました。その前科を抱える五十嵐さん
が、今、朝も夜も関係なく、休日もな
く、二十四時間体制で受刑者と出所者
のために動いていることが、私にとっては
何よりの神様がいての証です。お金ももら
ていない、誰から褒められるわけでもな
い。むしろ、いつも人に非難されています。
「そんなことをやって何の意味がある」と
か、「ろくでもない人間のくせに」とか…。

マザーハウスからお金を盗んで逃げた人
をまた受け入れるんです。マザーハウ
スからお金を借りて、返さない上に文句
を言っていて、その人の家族までもが五十嵐
さんに向かって「ダメエ、ふざけんな」な
どと汚く罵るのに、マザーハウスから追
い出さないんですよ。

普通の人だったら、こんなことできない
ですよ。周りの人から「すごいね」と
褒められるわけじゃない。しかも、優し
くした本人にさえ、「ありがとう」と言
われるどころか、ひどい言葉を言われる。
それなのに、こんな活動を続けるでしょ
うか。しかも、二十年以上も犯罪に染まっ
ていた人が、突然、こんなに愛と赦しを
実践し続けることができるようになるで
しょうか。

これこそ、五十嵐さんが神様と出逢っ
た証拠、神様が生きていて今も私たちに
働きかけている証拠だと思っています。

私は近くで働いているからよく分か
ります。マザーハウスの活動を続けること
に何の意味があるでしょうか。五十嵐さん
が、恥をかいて、悔しい思いをして、そ
れでも人のために尽くすことに何の意味
があるのでしょうか。死んで終わり、全
てなくなるのなら、こんな活動をやって
いても意味がないです。犯罪をしてお金を稼
ぐ方がよっぽど賢い生き方です。

でも、そうじゃないんです。愛そのも
のである神様がいて、天国があるんです。
死んでいる神様じゃないですよ！生きて、
意志がある神様です。今も生きて私た
ちに働きかけています。生きていて神
様がいて、「天国があるからこつちにおい
で」と言っています。「愛と赦しが本当の
生き方なんだよ」と神様が言っているか
ら、マザーハウスの活動に興味があるん
です！

だから五十嵐さんは、どんなに認め
られなくても、マザーハウスの活動をやめ
ないんです。死んで終わりじゃないから、
神様がいてから、マザーハウスの活動を
続けることに私たちは大きな意義と価値
を感じています。

私は五十嵐さんの姿を見て衝撃を受けて、信仰に導かれました。今は確信しています。生きている神様がいて、その神様は愛と赦しそのもので、天国を作って私たちを待っていること。

「主よ、あなたはわたしを究め わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り遠くからわたしの計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け わたしの道にことごとく通じておられる。

わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに主よ、あなたはすべてを知っておられる。

前からも後ろからもわたしを囲み御手をわたしのの上に置いてくださる。

その驚くべき知識はわたしを超えあまりにも高くて到達できない。

どこに行けば あなたの霊から離れることができよう。どこに逃れば、御顔を避けることができよう。

天に登ろうとも、あなたはそこにいまし陰府に身を横たえようとも 見よ、あなたはそこにいます。

曙の翼を駆って海のかなたに行き着くとも あなたはそこにもいまし 御手をもってわたしを導き 右の御手をもってわたしをとらえてくださる。」

(詩編百三十九章一〜十節)

神様は、私が立つのも座るのも知っている。それほど私たちのことを知っていて、身近にともになります。

神様は本当にいます。人は目に見えないものだけを信じますが、目に見えないものを信じる信仰こそ、生きる力、消えない希望です。

☆

私は、クリスチャンの皆さんに言いたいです。

聖書は、「私はブドウの木である」(ヨハネ十五章五節)と書いています。そして、私たちはそのブドウの木に「つながっている枝である」と。キリストに祈り、真の愛を实践することによって、豊かな実を結ぶ枝となるのではないのでしょうか。

今月の六日に、N刑務所を出所し、マザーハウスに来られた方がいます。彼は、マザーハウスに来て早々、ボランティア活動に参加し、毎週月曜日にやる聖書の講座にも参加することになりました。

「自分を変えたい」と思う方は、行動でその姿をあらわします。「イエス様大好き」「イエス様信じてます」。そう口で言う人は、大勢いると思います。でも、その人の行動や姿を見れば、その本気度がよく分かります。

北海道のM神父様があります。教誨師をされている方で、私は広島のカトリック教誨師連盟でお会いしたことがあります。

それにも関わらず、T刑務所のYさんが「キリスト教のことを学びたい」と手紙で言ってきたことを神父様にお願したところ、即座にその受刑者のところに面会に行き、交流をしてくださいました。

その姿を見て、「獄にいたときにたずねてくれた」(マタイ二十五章三十六節)というみことばを思い出しました。極悪人である私のお願いを聞いてくださり、その後も何人かの受刑者と面会して下さっています。神父様と面談した受刑者は、とても喜んでいました。

刑務所の中にいる人々にとって、一番の敵は孤独です。この孤独から解放してくれるのが面会であり、手紙ではないでしょうか。そして、その孤独の闇を光へ変えるのがイエス・キリストだと信じています。

七月一日のカトリック新聞に、私が講演会でお邪魔した茅ヶ崎教会の信者さんによる、受刑者との文通の記事が掲載されていました。これこそがイエス・キリストが言う、また、教皇フランシスコが言う、「福音宣教」ではないでしょうか。また、マザーハウスのために、茅ヶ崎教会の福祉バザーにおいて、マリアコーヒー

を販売させていただきました。大きな大きな愛をいただきました。感謝です。

マリアコーヒーは、ルワンダの働く女性のため、また、その子供たちのための支援となっており、なおかつ、日本の受刑者のジョブトレーニングにもなっています。全国のカトリック教会が販売・購入してくださいれば嬉しいのです。

マザーハウスは、これからも、キリストの愛に燃える集団として活動していきます。それが、私がキリストからいただいた使命であると感じているからです。



光りさん「くんくん。あれ？春のニオイがするぞ！(カピバラ)」

社会の声

立命館大学

講演後アンケート

* 去年の十二月、マザーハウス修学旅行時に立命館大学の学生たちに向けて講演した時の感想・意見をご紹介いたします。

(先月号のつづき…)



一兵さん

「人」対「人」で

刑務所という機関自体が、機密性が高いためになかなか社会全般に広まることがないため、より公にすべきではないのかと考えます。

例えば、学校教育の中で「道徳」という授業が僕らの時代にはありましたが、そのような授業時に刑務所関係者が実際に来て講演をしたり、あるいは犯罪者の内面的な部分、刑務所内の実態を説明する著書が教科書内で扱われても良いと思います。もっと、刑務所・受刑者の実態というものを見せられる範囲で見せるべきだと僕は思います。

社会とのつながをもっと強めることで、刑務所職員の不祥事の隠れいも防げるし、受刑者自身も、社会に見られているのだと意識すれば、何か気持ち的にも楽になれるのではないかと思います。

要するに、特殊な環境に身を置かれている受刑者の実態を教育で広めるべきであると思うし、外部の人間も受刑者の実態を理解し、社会全体が手を差し伸べられるようにしておくべきだと思います。

「犯罪者」対「一般人」ではなく、「人」対「人」でつながらなければいけないのだ、受刑者が回復するには法律・処罰よりも人間的なつながりが一番大事な要素なのだと改めて思いました。

手をさしのべてあげる
という行為を

子供の時にやつてあげれば

刑務所の中の現状、いじめの現状を知って驚きました。刑務所の中の状況はテレビなどで見たことがあって、あんまり一般社会と変わらないなと思っていましたが、実際違いました。ここまでいじめがあるのか、派閥等があるのかと思っぴつくりしました。

また、刑務所内の最低賃金を聞いて、受刑が終わった後の支援の重大さを痛感しました。まさか五円だとは思いませんでした。今の社会は、一度道を踏み外した人間にとっては社会復帰しづらい世の中なんだなと思いました。

「犯罪者も一人の人間でありモンスターではない、みんなと一緒の赤い血が流れているのだ」ということが一番印象に残り、犯罪を犯してしまう人間は、必ずしも全てがその人だけが悪いというわけではなく、社会全体が子供に対してどう接するのかを考え、手をさしのべてあげるという行為を子供の時にやつてあげれば、犯罪は少し減るのかなと思いました。

質問の中で、携帯電話の基本料金の話がありました。確かに十年ほどで世の中は大きく変わります。出所後に世の中の変化についていけないことが、再犯してしまう原因の一つなのかなと思いました。

外からは分からない

五十嵐さんが実際にやつて見せてくれた敬礼や、刑務官への伺いを見ると、外からは分からないことだらけで、刑務所内の常識は異常だと感じた。

刑務官と受刑者との関係を 保つためのシステムが必要

受刑者の釈放の手続きにおいて、弁護士がつかない場合に対応の変化があるなど、刑務所で不正な行為があることが印象に残った。刑務所の意義に準じた、刑務官と受刑者との関係を保つためのシステムを持つことが大切である。

「自分は一人じゃない、
社会とつながっている」
という思いを持てば

過去に戻らせないことが

最も重要

罪を償うことは重要であるが、社会復帰した後に過去に戻らせないことが最も重要であると分かった。そのためには、刑務所と一般社会が完全に切り離された現在の仕組みや刑務所内の孤独を変えなければならぬのだと気づいた。

今までの自分の中の常識のようなのが、全て偏見だったと気がつきました。刑務所にいる人たちの暮らしが、想像を絶するほど過酷なものだとは思いませんでした。トイレも自由に行くことができない環境で、人を人と扱わないような雰囲気も蔓延している。そんな場所だとは思いませんでした。刑務所の中の暮らしが外に見えていない状況が、このような現状を生み出しているようにも思えました。

まずは社会が、刑務所の中を正すように圧力をかけていかなければならないと考えます。人々の刑務所に対しての意識が強まり、受刑者の人たちがそのような扱いを受けていることが社会に伝わっていけば、今の状況を改善しようと行動に出る人は多くなってくると思います。

また、受刑者の方と、社会の人々とのつながりというものも大切にしていく習慣を作っていかなければならないと感じました。社会は、犯罪を犯した人が悪いといった態度を平然ととるけれど、そ

の犯罪を行ってしまった原因自体が、社会からの孤独感であったりするので、社会の人々が気を配り受刑者の方々と関わっていかなければならないと思います。受刑者の方々が、「自分は一人じゃない、社会とつながっており社会から支援されている」という思いを持てば、犯罪の再犯は少しずつ減っていくのではないのでしょうか。

自分の環境が通常と思ひ、 周りにもその価値観を

強制するようでは、

社会は成り立たない

僕たちはどうしても、犯罪を行った人のことを全面的に責めてしまう気がします。たしかに、犯罪はダメなことです。許される行為ではないのは明らかです。しかし、本日の講演の中にもあったように、受刑者の方々も心に傷を負ってしまっていて、どうしようもなくなると犯罪に踏み切ってしまった場合もあります。そういう当事者の思いを大切にあげると

を一人ひとりが持つことも大切であると
考えます。

自分を主体として考えることが増えれば増えるほど、周りが見えなくなってしまうとおもうので、偏狭な見方や考え方はなるべく遠ざけて、様々なものを多角的に分析できるような力をつけたいです。自分の環境が通常と思ひ、周りにもその価値観を強制するようでは、僕たちの社会はいつか成り立たなくなってしまう。そんな根本的な、最も簡単なことすら分からなくなっていた自分を恥じたいです。

今回はこうして、刑務所や、受刑者の方々のことや、司法制度を考えるきっかけをくださってありがとうございます。これからの勉強にもさらに励んでいきたいです。



頑張ニヤ!

河童さん

刑務官と犯罪者の 絶対服従関係は問題がある

刑務所では刑務官が大きな権力を持っており、犯罪者は刑務官に絶対服従の関係にあると思います。五十嵐さんは、刑務官が過失で犯罪者を殺害してしまつた時に告発を行った者をいじめたと言っていました。講義でも問題として取り上げたと、この刑務官と犯罪者の絶対服従関係は問題があると思いました。

心の持ちようで

変えていくことができる現状

刑務官にも派閥があり、いじめの矛先が受刑者に向かうこと、医務官が素人であったことなど、映画の中でしか起こり得ないとはかり思っていたが、これが現実であり、それに加えて「日本」で起きていることに大変驚いた。

刑務所の本当の実態を知る機会は今までなかったため、経験した人の生の声で知ることができ、貴重な体験をすることができたと思う。釈放後の社会の対応、反応についても、「これが現実なんだよなあ」と思った。今までは、社会が犯罪者に対して厳しいことを漠然としか思っていなかった。しかし、具体的なこと（釈放後に住む家が見つからないなど）を知り、家を貸す側からすれば警戒してしまつのはもつともなことではあり、難しい問題だと思った。

一方で、弁護士がついているだけで手のひらを返したような態度を取るといふことに関しては、改善できること、していくべきことのように感じた。人間は、自分より地位が高いであろう人間にはへこへこし、見下してもいいと勝手に決めつけた相手には容赦がないのだと知った。

弁護士さんがついてくれさえすればスムーズに事が進む場面では、弁護士さんがついてくれさえすれば良いのだが、反対にそうでない場合は為す術がなくなってしまう。

これは、人としての問題であると考えられるから、心の持ちようを変えていくことができる現状であると思った。けれども、人間の本质というところであるからそう簡単には変わらないのだろうとも思う。

助ける人、止める人、 叱る人がいないこと

一番印象に残つたことは、『助けて』と言える社会にすることが必要だ」という言葉である。受刑者が犯罪を犯してしまう理由は様々だと思うが、その多くの理由は、その人達を助ける人がいなかったからではないだろうか。社会で生きていくことができない、さらに、誰も助けてくれる人がいないことから、犯罪を犯してしまうのではないだろうか。また、それを止めてくれたり、叱ってくれる人もいないことも原因である。

国民が、現在の制度が 閉鎖的であると認識する

司法制度が、前提として社会のために存在している以上、受刑者の更生のための制度をより充実させる必要と、刑務所がより開かれたものである必要を感じた。

お話では、再犯刑務所の受刑者のほとんどは親族とのやり取りをしておらず、最低賃金が一時間約五円であるなど、社会との関わりも少なく、金銭的にも社会復帰をすることに対して受刑者が現実に意欲的に考えられるような状況ではないと思った。受刑者と交流をもつボランティアの募集や、親族との交流がない受刑者にも他者との繋がりを感ぜられるような制度が刑務所にあっても良いと思った。加えて、刑務所内で働いて得た賃金を貯金して出所後の生活に回せるような仕組みが必要だと思う。

どのような組織も、閉鎖的な仕組みにすると、必ず動かしている人間が制御されず暴走するので、より開放的な組織にすることが必要であり、そのためにはまず多くの国民が現在の制度が閉鎖的であると認識する必要があると思う。



おたふくさん

「名犬に慰められるおじさんの図」

刑法や刑務所の存在意義

今日の講演を聞いて、私は改めて刑法や刑務所のあり方や存在意義について考えました。刑法とは何のためにあるのか、刑務所とはどういう場所であらなければならないのか少し分からなくなったからです。

一滴の水も大河まで

服役経験のある人の話を聞くのは今日が初めてだった。

まず、「刑務所は犯罪者の養成所」という言葉が印象的だった。刑務所という閉鎖的な世界の中で起きていることは国民の目には届きにくい。だからこそ、「刑務所の常識は社会での非常識」とおっしゃったように、独自の規範のようなものが形成される。こういった悪しき循環を止めるためには、国民の監視が不可欠

である。国民の関心が高まれば、世論が法律を変え、組織改革を行うきっかけになる。

次に、「模範囚は危ない」という再犯の危険性を指す言葉があった。では、「更生とは一体何か」と考える。個人的な見解として、誰も犯罪因子は持つていて、それと環境などの要因が合わさって犯罪行為として表出するのだと思う。更生というのは、再犯の可能性を一般人が初犯を犯す可能性まで薄めることだと考える。

そこでネックになるのが、社会の受け皿であり取り巻く環境の問題である。

前述したように、中にいた人が刑務所を「犯罪者の養成所」と言っているのだから、刑務所に何かを期待するのは難しいだろう。しかし、一度罪を犯してしまえば出所後の環境はそれ以前より厳しいものになる。生きづらい環境のせいで犯罪をした人にとっては尚更、酷なことである。

生活保護課や社会福祉課などの行政が当事者を見ず、マニュアル通りのごとしかしていないというのも、原因だと思ふ。受け皿がしっかりしていないからこそ、ヤクザや暴走族などはもちろんのこと、不良たちも同じ穴に戻っていき、悪い仲間たちに毒され、また罪を犯す。

以上より、「反省は一人ではできるが、更生は一人ではできない」という言葉には、大きくうなずけた。

マザー・テレサの「一滴の水も大河まで」という言葉にならない、自分には関係のないことを高を括らず、関心を持ち続けるようにしたい。

社会にある原因を取り除く

監獄内の現状の酷さを改めて知りました。知識として得ていた情報はあったものの、実際に経験した方からの話を聞くとやはり重みが違い、私たち法律を学ぶ者だけでなく、もつと世間一般にも監獄内で何が起きているのが広く知られるべきだと感じます。

そして、犯罪を犯した本人だけを応援感情のままに責めるのではなく、犯罪を犯すに至ったバックグラウンドを知り、社会にある原因を取り除く努力をすることが私たち社会全体の使命なのだと考えます。

機会がなければ、大多数の人間には知られないまま

今回のお話を聴く以前にも、刑務所のことについてある程度は勉強していたつもりでしたが、それはほんの表面的な部分に過ぎず、社会の目が届かない裏側では、依然として過酷な現状があることに驚いたと同時に、このような機会がなければ大多数の人間には知られないままであるという事実には恐怖を覚えました。

社会復帰を目的とするはずの刑務所でありながら、その態様や受刑者への扱いは、社会復帰とはかけ離れたものであると改めて感じました。お話しいただいた中で、「人は、人によって回復する」との言葉がありました。このような刑務所の現状では、その実現はかなり厳しいという印象を受けました。



一兵さん

周囲の人間が行動を評価し、 受け入れることが不可欠

一番印象に残ったのは、犯罪を犯した人が立ち直るためには、その人自身の反省や努力だけでは足りず、犯罪を犯した人が社会に戻ることを我々が受け入れることが必要だ、という点です。

犯罪を犯した人に対してレッテルを貼り、「我々とは違う人間なんだ」と、まるで宇宙人や別の生き物であるような扱いをしたりすることは絶対に間違っていると思います。

犯罪を犯した人も我々と同じ人間であり、刑務所での受刑期間を満了すればまた社会に復帰するのです。

彼らが、自分が犯した罪の重さを十分に理解し、反省するのはもちろんのことですが、五十嵐さんもおっしゃっていたように、更生は一人ではなし得ないことだと思います。周囲の人間や社会が彼らの行動を評価し、彼らを受け入れることが、更生のためには必要不可欠だからです。

犯罪学の講義において、受刑者の社会復帰の問題や刑務所内での待遇の問題に関しては多くのことを学びましたが、実際に元受刑者の方からお話を伺うことで、より理解が深まりました。講演を聴くことができて大変良かったです。

一人の人間としてその人を見て関わっていった時に

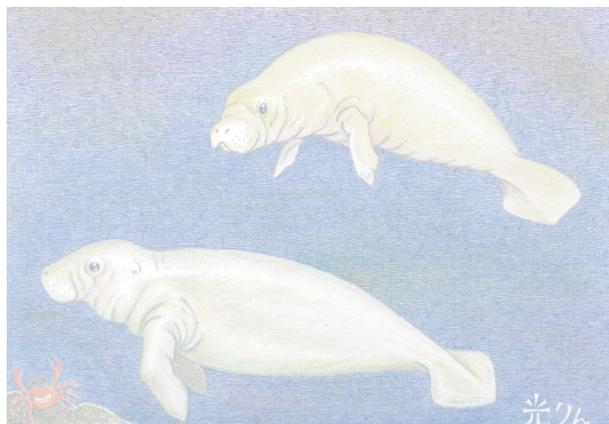
一番印象に残ったのが、まず、「一般社会と刑務所の常識は違う」こと、そして、「反省は一人でも更生は一人ではできない、地域や社会の人との関わりの中で回復していく」ことだった。

規律が全て決められている刑務所で刑期を終え、いきなり「一般社会に適合しろ」と言われてもできない。

確かに罪を犯すことは悪いことだしそれは償うべきだが、出所した後にも犯罪者というレッテルを貼って避けてしまうのではないかなと思った。その人がなぜ犯罪を犯さないといけなかったのか、どうい

うバックグラウンドがあったのか、それを我々一般市民はあまり考えていないのかもしれない。

性善説を支持するわけではないが、五十嵐さんがおっしゃっていたように、地域そして社会が犯罪者というレッテルではなく、一人の人間としてその人を見て関わっていった時に、人間は誰でも良い点を持っているから、更生できるのではないかと、ということを感じた。



光りんさん
「ん〜。どう見ても、
人魚には見えないな。
失礼なヤツだなー！」

バッシングをしても

犯罪は減らない

私が最も印象に残り、かつ重要なことだと感じたのは、「困っている人が、『助けて』と言える社会にしなければならぬ」という言葉である。

「石巻事件」についても、私は五十嵐さんの考えに強く共感する。たしかに、犯罪を行った少年の行為は罰せられるべきで、絶対にやつてはいけないことだ。

だが、社会がバッシングするだけで何かが変わるのだろうか。バッシングをすれば犯罪は減るのだろうか。答えは否だと思う。児童相談所は、虐待を受けていた少年に手を差し伸べたのか？小中学校で不登校だった時、学校は何をしてあげたのか？この少年は果たして、「助けて」と誰かを頼ることができたのだろうか。

犯罪は絶対にしてはいけないことである。しかし、社会自身が変わらなければ現状は変わらない。そう考えると、私は、バッシングをするだけして、「犯罪が多くなった」などと批判するのはワガママではないのか、と感じるようになった。

再犯率が高いのも頷ける

お話を聞いて感じたことは、受刑者は人として扱われていないということです。

「我々は同じ人間だ、宇宙人じゃない」と五十嵐さんはおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。刑務所の中では人として扱われない環境で過ごし、いざ刑期が終了すれば、何のフォローもなしに追い出され、普通の人間として社会で生活していかなければならない。再犯率が高いのも頷けると思います。

その考えが、孤独を生む

今まで、「犯罪を犯した人はそれ相応の罰を受けるべきだし、社会生活に戻れないのも仕方ないことだ」と思っていたが、その考えが受刑者の孤独感を募らせ、また犯罪をさせてしまうことにつながりかねない、ということが分かった。

我々の中に含まれているか、排除されているかの違い

講演の際に書き留めたメモを見返してみると、犯罪を犯してしまった人と社会との間の壁の多さ、溝の深さを一番に感じます。「刑務所に入る前は我々と同じ社会の中で間違いなく暮らしていたのに、刑務所から社会に戻ると、まるで宇宙からポンと現れたかのような扱いである」。強く印象に残りました。

つい最近、刑事弁護士の方のお話を聞く機会がありました。その時、講師の方は、「犯罪を犯してしまった人と捉えるか、犯罪を犯した人と捉えるか」という趣旨の講演をしてくださいました。我々の中に含まれているか、排除されているかの違いなんだと思います。五十嵐さんの宇宙人の例えと通ずるところがあると思います。

人間は弱い生き物であるため、誰しもが状況次第で犯罪を犯してしまいます。犯罪を犯してしまった人自身にも原因は存在するかもしれません。しかし、それで社会が犯罪を犯してしまった人を見放しているとは思いません。犯罪者に対して

する差別的な発想はやめて、犯罪を犯してしまった人が、社会との間に感じる距離感を少しでも縮めていくことができると社会に向けて、できることを探していきたいです。

社会の人々全員が、

社会を変える努力を

犯罪学の授業や刑事訴訟法の授業を通して、社会の意識を変えていかなければならないと漠然と思っていたけれど、テレビで殺人や傷害等の犯罪が報道されたとき、罪を犯した人に対しての自分自身の意識は、世間一般の人々と変わっていなかったとハツとしました。

「加害者が悪い」という報道ばかりがされることにも原因があるのかもしれないですが、世間の人々の意識がそのような報道をさせているのかもしれないと感じています。幼少期に虐待をされたり、いじめを受けていたり、様々なバックグラウンドが犯罪をする原因となるのだから、

それ気付けなかった周囲の人、原因を作ってしまうような社会を変えられなかった社会の人々全員が、少しでもその罪を感じ、社会を変える努力をしないと、自分から変わっていかなければいけないと強く感じました。

誰でもいつでも

犯罪を犯す可能性はある

私にとって最も印象的だった言葉は、「犯罪に一番関わりやすいのは、金や女を求める人であり、また、『自分は絶対に犯罪を犯さない』と言っている人だ」という部分です。

例えば裕福な家庭で何不自由なく幸せな家族に囲まれて育った人でも、学校や仕事を通じて人間関係が広がることにより、トラブルが生まれることも十分に考えられ、「犯罪を犯さない」という認識を持っている人を含み、誰でもいつでも犯罪を犯す可能性はあることを再認識しました。

刑期を務めただけでは 償えない枷

今の日本の現状では、前科のある者が
ない者と同じ程度の社会生活を営むこと
は難しいと思います。でも、自らが過去
に行った行為の被害者に対して、刑期を
務めただけでは償えない枷を背負ってい
かなければならないとも思います。

前向きになるための機会

塀の中では、心身共に苦痛を強いられ
るケースが少なくはなく、受刑者が権力
関係や獄内のいじめなどの被害を受けて
しまうこともある。

そんな中、罪という過ちを犯した人間
であっても、同じ人間として、信仰や文
通などを通じて、思い思いの言葉をつぶ
やいたり、生きることにそのものを問い直
したりすることで、私たちと同じ人間で

あることを忘れない、そういった前向き
になるための機会があることは、とても
大切であると思いました。また、それら
に携わるボランティア活動があつてこそ
機会でもあり、私たちも刑事政策を考
えるうえで、認識しておかなければなら
ない事実であると思いました。

「恵まれない環境」は

言い訳などではない

「犯罪者はモンスターではない。犯罪を
犯すに至ったバックグラウンドがある」と
いうのは、授業で何度も耳にしましたが、
やはり私は犯罪者に対して偏見の目を
持っていました。

しかし、今日の講演で触れていた石巻
事件について調べてみると、加害者の少
年は、「自分も虐待を受けてきたから、
ビンタ一発は暴力と思っていなかった」と
語っており、生育環境がもたらす影響力
の高さを感じました。

「恵まれない環境」というのは言い訳な
どではなく、一般的な社会通念とは違つ

た考え方を本人にもたらし、犯罪の道へ
進ませるのだと改めて思いました。

そうすると、現在の応報的な日本の刑
務所のやり方は、間違っているのではな
いかと考えます。五十嵐さんは、現在の
刑務所は犯罪の温床になっているとお話
しされていましたが、その通りだと感じ
ました。愛情を受けることなく、社会と
の関係が希薄な環境の中で育つことが犯
罪の原因になるのならば、社会の側から、
こうした恵まれない背景を持つ人たちに
働きかける必要があると感じました。

皆が犯罪者になりうる

「受刑者はモンスターではなく、私たち
と同じ赤い血の流れている人間である」
という言葉に考えさせられました。
社会の中で孤立することが犯罪の原因
であるなら、皆が犯罪者になりうると思
います。

私は高校を中退していて、その時はか
ろうじて両親や少ない友人のおかげで社
会との繋がりがなくなってしまうことは
ありませんでしたが、所属する場所が無
くなり、分かりやすい身分も無くなった
ことで、孤独を味わいました。

犯罪者になるかならないかは、そういつ
た孤独の中で犯罪を犯すか犯さないかの
違いであつて、そこには大きな違いはある
かもしれないけれども、ただそれだけな
のだと思います。

小さな間違いなら誰もが人生の中で犯
しています。何かの間違いで犯罪を犯し
てしまった人々にも、やり直すチャンスが
あつてしかるべきだと思います。



光りんさん

「いま、目の前の

自分のことに集中しよう」

社会と刑務所は繋がっている

一般に、社会と刑務所は切り離された存在という風に認識されている。私も以前までそのように考えていた。

しかしながら、犯罪を犯す理由に至った背景は社会にあるし、犯罪後の更生をサポートしていくのは、社会に生きる私たちである。そういった意味においては、社会と刑務所は必ずしも切り離されているとは言えず、繋がる部分があると考えた。

きっかけは身近にあるもの

五十嵐さんが犯罪へと手を染めてしまった理由が家族への不信感から始まった、とおっしゃっていて、本当にきっかけは身近にあるものなのだと感じました。

私は母や妹とはすごく仲が良く、「愛されていない」というその発想すら、今

までなかったもので、聞いた瞬間はすごく遠く感じてしまいました。家族に限らずそれは友達や恋人にも同じように言えることであって、「私は必要とされていないのではないか」と考えてしまうところから、犯罪の発端となる孤独へとつながってしまうのは、誰にでも起こりうることであると感じました。遠く感じていたものがお話が進むことに遠いものではないことが分かり、少し怖くなりました。

助けを求めることができれば

特に私が印象に残ったことは、「助けて」と言える、ということについてです。

私は地元を離れて下宿をしています。が、半月に一度くらいの頻度で家族と電話をし、それ以外にも母にはメールで普段の出来事について話しています。その中で、友達には話にくい部活での悩みや困っていることを聞いてもらうこともあります。また、友達と話しているときも、しばしばお互いに部活や人間関係や恋愛等の相談をしています。

お話を聞いて、自分には、悩んだり困ったりしても包み隠さず「助けてほしい」と言える人がいてくれることに改めて感謝し、反対に、自分を信頼して「助けて」と言ってくれた人にはしっかりと応えていかなければ、と思いました。

同時に、そのような相手がいない人たちが実際にいるという事実がとても重たく感じました。もし、助けを求めることができる人がいれば犯罪に手を出すことはなかったかもしれないと思うと、必ずしも本人のみの責任とは言い難いのではないかと感じました。

私達の刑務所への無関心さ

に原因がある

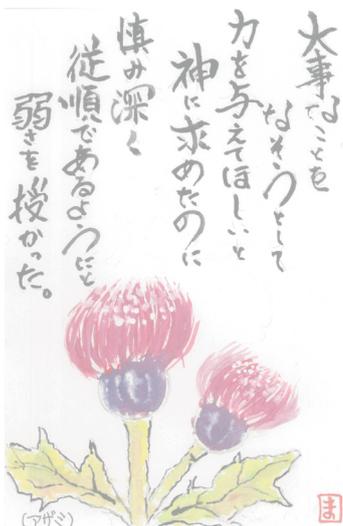
刑務官に、「自分ができないようなことを何故、収容者に強いるんだ？」と質問したところ、「だってあなた達は犯罪者だから」と返ってきた、という話を聞いて、とても切ない気持ちになりました。

このような刑務所の実態がなかなか改善されないのは、刑務所の不透明さ、

私達の刑務所への無関心さに原因がある」と分かり、私達が声を上げる必要性を感じました。

まずは、講義前の自分のような人達の意識を、「犯罪を犯してしまった人達も、周囲の状況の問題が犯罪という形にあらわれてしまっただけで、犯罪をしていない人達と同じ人間であるのだから、まるでモニターであるかのような扱いをするのは許されないことなんだ」と変革するところが大切だと思います。

そのために、些細な一歩かもしれないですが、今日の講義の内容を親や友人に広めていきたいと思っています。



風つ子さん

思いやり、優しい言葉、
傷を癒す人が近くにいること

犯罪は些細なきっかけから起ることもあるが、その犯罪を防ぐために大事なことは、思いやりや優しい言葉、傷を癒す人間が近くにいることなんだと身に染みて感じました。

そして、日本の殺人事件で一番多いのは家族間・親族間という事実に驚きました。たしかに、テレビでそのような事件のニュースをよく見て、胸が痛くなります。親族間での殺人が多い理由は、「赦し合うことができないから」とのことですが、家族だからこそ、ありのままを話したりして赦し合うことができるのではないか、と思いました。

もう一つ驚いたことが、約五十人の受刑者のうち、親族と手紙などのやり取りをしている人はたった三人という割合（再犯刑務所の場合）で、千人を収容しているある刑務所では百人いかない、ということでした。

私は何も分かりませんが、そのような親族とのやり取りは、受刑者が更生する上での支えのようなものになるのではないかとと思います。

ないかと思ひ、親族側がもっと受刑者とのやり取りを積極的に行うべきではないかと考えました。

石巻の十八歳の少年の事件では、社会が少年は更生できないと判断し、五日間で死刑判決を下されたと聞いて驚きました。五十嵐さんがおつしやっていた通り、事件が起こる前に事件を防ぐために何かできることがあったのではないかと感じました。

人と人との繋がりと、
お互いの信頼関係が重要

「両親が不仲であったり、片親であったりする人は、誰しもが傷を抱えて生きていく」という言葉が、個人的には非常に強く印象に残り、また共感できました。

私自身、片親であり、今までずっと父子家庭で育ってきたために、寂しさであったり、「普通の」家庭で育ってきた人達との間で相容れなさを感じたりしたこと、確かにありました。

また、一連のお話を聞いて、人が非行に走る、または何かに依存してしまうことを防ぐためには、人と人との繋がりと、それに付随したお互いの信頼関係が非常に重要であると感じました。

自由を全て奪うから、
人のことを考えられなくなる

決められた規則に受刑者が従わなければならぬのは、ある程度仕方がないのかな、と正直思ってしまうが、人として最低限、当たり前に必要な行為すら禁止する意味がどこにあるのだろうかと思いました。宗教についても、キリスト教を信仰しているというだけの理由で、刑務官からだけでなく受刑者にすら非難された、という話を聞いて驚きました。体の自由がないのなら、心の自由くらい認めるべきだと思いました。

そついった自由を全て奪うから、受刑者は自分のことしか考えられず、人のことを考えられなくなり、犯罪を反省しないのではないかと思います。

周りの人の影響

お話で印象に残った言葉は、「反省は一人でもできるが、更生（回復）は一人ではできない」ということです。犯罪を犯すことは悪いことではあるけれど、犯罪には周りの人の影響も大きく関係していると改めて思いました。

また、犯罪を防ぐためや、出所した人を受け入れるための社会の取り組みなどが大事なんだと強く感じました。しかし、実際にそのような活動をするのは難しいと思うので、マザーハウスが受刑者に向き合い、手助けするような活動を行っていることに感銘を受けました。



「相手の立場に立つて」の
「相手」に、加害者は
含まれていなかった

最初から犯罪者として
生まれるわけではない

私はこれまで、犯罪に該当する行為を
する人がどんな人なのか、ほとんど考え
たことはありませんでした。刑法を勉強
してどんな行為が法律に抵触するかを
知っていても、彼らがどんな人生を送り、
処遇を受け、そして出所後にどんな生
活をするのか…よく知らないし、考えた
こともありませんでした。

しかし、忘れられる権利について勉強
したことや、犯罪学の授業を通して、犯
罪の前科や彼らの社会での生きづらさを
考えるようになっていきました。

そして、今日のお話を聞いて、私の知っ
ていたはずの社会が狭かったことを知り
ました。

小、中学校で受けた人権教育には当
事者の一方しか登場していなかったこと、
私たちが「相手の立場に立つて気持ちを
考えるように」と言われた「相手」に、
加害者が含まれていなかったことを気づ
かされました。

受刑者は刑務官の許可なしに自由に行
動できない、ということは知っていました
が、実際に服役された方の話を聞くと、
現実にあることなのだ改めて実感でき
ました。

トイレに行く時でさえも手を挙げて、
刑務官に、小か大かまで宣言しなければ
ならないというのは、人としての尊厳
を侵害しているし、生理欲求にも関わら
ず許可しないこともあるというのは、虐
待でしかありません。

実際、刑務官の中には、わざと受刑者
のことを虐待して加虐心を満たしていた
者もいたでしょうし、受刑者を更生させ
るべき刑務官たちがこのような状態では、
更生施設として機能していないのも無理
はありません。

受刑者が虐待され死亡したことで、刑
務所に視察が入り、百年ぶりに監獄法
が改正されたことを思うと、哀しいこと
ですが、彼の死も無駄ではなかったのだ
でしょうか。改正後の今、受刑者に対す
る卑劣な行為はもう行われなくなってい

ると思いたいですが、私たちが知らない
だけで、どこかで虐待が行われているの
かもしれません。

犯罪者は最初から犯罪者として生まれ
るわけではないこと、私もそう思います。
たとえ道を踏み外してしまっただとしても、
人として最低限の尊厳は守りながら更
生させていくべきです。



(おわり)

光りさん こんにちはーぼく、ヘビ
です。世の中には、ぼくを嫌いな人
が多いです。じっくり見たこともない
のに…。あなたは、生まれたばかり
の曇りのない目で見てくださる。

わびきみつお

コーナー

死に至る病

絶望の果てに

「何のために生きているのか分かりませ
ん。自分の人生はいつたい何だったのか。
もう自分に絶望しました。早く死んでし
まいたいです。ホームで電車を待っている
と、ふらっと飛び込みたくなる衝動にか
られます」。

一生懸命まじめに家族のために働いて
きたのに、ある日突然、妻が二人の幼い
子供を連れて、自宅付近にある実家に
帰ってしまった。しばらくして、裁判所

に離婚調停が申し立てられ、調停不調で離婚裁判に移行。私は夫側の代理人になったが、打合せの度に、彼は「死にたい、死にたい」と言っていた。

子供には連絡も取れないし、会わせてもらえない。

妻とはうまくいっていなかったので、子供をかわいがるのが生き甲斐だった。仕事で疲れ切つて帰宅した時、「あつ、パパだ！パパおかえりなさい！」と歓声をあげて、奥の部屋から走ってきた子供たちが抱っこをせがまれることほど嬉しいことはない。だが、今は帰宅しても誰も



河童さん

あまりにも寂しくて、遠くから子供たちの姿を一目でも見たいと、休日に妻の実家や子供の学校の付近を散歩していたら、今度は妻から保護命令を申し立てられ、裁判所から六か月間の連絡・徘徊禁止命令が出されてしまった。その命令は、離婚裁判の継続中は無条件で延長された。

ある日、うっかりして妻の実家付近のコンビニで買い物をしていたら、駆けつけた数名の警官により、保護命令違反で現行犯逮捕され、一週間も留置された。偶然、彼を見つけた妻が警察に通報したのだった。

不運にも、警察に捕まったことが会社に知れ、降格・減給処分となった。一旦落伍した者に対して、世間は非常に厳しい。彼は、将来の出世の道も閉ざされ、生きる気力を失ってしまった。

このような事例は今、社会にまん延しているのではないだろうか。

試練に耐えられず、世の中に失望し、自分に絶望して、死を選ぶ人が後を絶たない。まさに、キルケゴールが言うように、「死に至る病」とは、「絶望」である。

希望の力

そんな彼が、ある時から急に明るくなってきた。

「最近は何機嫌のようですが、何かあったのですか？」と聞くと、「ええ、自分のことを相談していたクリスチャンの友人から、ゴスペルソングを歌うグループに誘われて、それに参加するようになりまして」と言う。

「ゴスペルを歌うと、そんなに気分が良くなるのですか？」と聞くと、「よく分からないのですが、歌っているうちに涙が出てきます。そして心が癒されているように思えるのです。なんとなく生きる希望が湧いてきました」とのことだった。

彼はその後、友人の教会に行くようになり、夫としての至らなさを悔い改め、熱心に聖書を学んでいる。

きっと、希望の神と出会い、希望の力によって、自殺願望を乗り越えて明るく生きていくだろう。

この夫婦が裁判を通してお互いに和解し、家族が元に戻るようにと祈っている。

☆ 「失望したければ世の中を見よ。絶望したければ自分を見よ。しかし、希望を持ちたければキリストを見よ」

セーレン・キルケゴール（哲学者）
『死に至る病』

☆ 「人間は、自分の存在価値を確信しているときは、どんな飢餓や拷問にも耐えることができる」

ビクトール・フランクル（精神科医）
『夜と霧』

☆ 「患難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生み出す。そして、希望は失望に終わることはない。なぜなら、聖霊によって神の愛が私たちの心に注がれているからである」

（ローマ五章三〜五節）



風っ子さん

理事長の奥さんによる

育児日記

幼稚園の帰り道、A君が突然、先に走って行ってしまいました。赤信号を突っ走って行ったので、「あぶないー！止まってー！」と叫びましたが、声は届かず、楽しそうに走っていく後姿に、神様にお祈りしながら、やっとA君に追いついて注意をしました。

次の日、幼稚園で親子交通安全全の集まりがあり、婦警さんに信号の渡り方を教えてもらいました。その日から左右を見て手を上げて渡る練習をしています。

ある日、Kちゃんと一緒にお風呂に入っていたら、A君が入ってきて、「ままートイレながれな」と言ったので、慌ててトイレに行くところ…なんと！トイレが水浸し！！どうやらトイレレットペーパーを流すのが楽しかったらしく、大量に紙を流したので詰まったみたいですね。しかも濡れた足で部屋中を歩いています…（泣）。

Kちゃんは、ある朝、クレンジングオイルを顔中に塗って、顔がつかたかになっていました。

次女のRちゃんは、寝返りができるようにになりました。いつも指しゃぶりをしています。髪の毛が沢山あるので、汗でびしょよりしています！



なかよし♪

受刑者からのお手紙

塀の中の
たより

ポジティブは、

心に希望を導く近道

雪鬼さん

通常、私たちの生活の中は、幾重にも制限を受け、縛られているので、ついついグチをこぼしたくなるのが人情というものです。しかし、グチをこぼしたところで、どうなるものでもありません。

物事の一面にとらわれ過ぎて、全体が把握できなくなるのは、人間の欠点のひとつだと思えます。「自分の心が惑わされるのは、好悪の感情と自分自身の都

合に左右されていることが大きい。事実を事実として認めたがらない心理的傾向がある」と、何かの本で読んだことがあります。

確かに、物事を考えるにあたっては、自分の持っている基準にあてはめようとしていたり、固定観念にとらわれて判断したりしていることがほとんどだと思います。そして、大抵は、環境や体制、学歴や本人の性格的なものも重なって、不平不満に満ちた日常生活に迷い込み、そのマイナスの考えが行動を規制し、行動が規制されることでまた考えをマイナスに…と連鎖になってしまいます。だから、どこかで、この連鎖を断ち切ることが大切だと思います。

物事を常に良い方向に…は、難しいかもしれません。しかし、ポジティブに考えることは、人の心に希望を導く近道だと思えます。たとえマイナスの思いが浮かんでも、決して言葉に出さぬよう心掛けたいです。

言葉は違う形で自分に返ってきますからね。それと、誰も見ていないからと良くない行動をすれば、これもまた、違う形で自分に返ってくるものです。「天知る、地知る、我知る、人知る（※誰も知る者がおらず、二人だけの秘密にしよう」と

思っても、天地の神々も知り、自分も相手も知っているのだから、不正は必ず露見するものだということ」ということだと思えます。

完璧でないからこそ、その完璧を求め、悩み苦しむけれど、その過程は決して無駄ではないと心から思う。今日この頃です。

皆様、この夏を元気で乗り切りましょう。

善の種を蒔く

(同じく、) 雪鬼さん

受刑者の皆さん、社会復帰に向けて頑張っておられますか。最近、特に強く感じることはありません。それは、悪い行いには悪いことが、善い行いに対しては善いことが、必ずというほど、自分の身に返ってくるのです。

「因果応報」「ブーメランの法則」…少し自分の過去を振り返ると、結構、身

に覚えがあるのではないのでしょうか。

たぶん、誰もが分かっていることだと思います。しかし、分かっているのに、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」ことが多いのでは…？

再犯者の多くは、踏み込んではいけな領域に踏み込んでしまった経緯から、他の人よりもミッターが壊れている状態だと思います。踏み込んだことが無ければ、とどまる術もあります。人の行いに歯止めをかけているのは何か。事是非を自らに問い、善悪の区別をし、それを人としての道徳から、羞恥心というものが大きくなるからではないでしょうか。初めて悪いことをした時の、自分との葛藤を思い出してみてください。一度踏み込んで、一時的にでも上手にいくと、ミッターが壊れていくのです。結果は、私も含め皆さんの現状が全てを物語っています。

では、更生という真の意味から、このリミッターを正常に戻すためには何が必要でしょうか？自分自身との戦いです。他の人との戦いではありません。人生を全うするための極意は、人それぞれが必ず持っている「善」というものが前提にあると私は感じました。

冒頭の「因果応報」に戻りますが、自

分にとって悪いことや苦しいことが起こるのは、全て自分自身が蒔いた種であり、刈り取っていくしかないと思います。新しい種(善)を蒔くことにより、悪いこと、苦しいことは必ず減ります。

まずは、実践することが第一歩。それを続けるうちに、ある変化に気がきます。自分の意識の中にある「善」が膨らみ、「悪」がしぼんでいくのが分かります。そして初めて、まわりの人の意見、話というものが我が身に染み込んでくるのが分かり、その感覚を育てていく大切さも分かり、まわりに目を向けていくことができるようになります。決して、自分一人の力で全てを解決しようなどと思わないでください。「傲慢」が膨らみ、「善」がしぼんでしまうからです。喜怒哀楽は付きものですが、場の感情に流されぬよう気を付けたいものですね。



おたふくさん

「アオパオマオ、新しい顔ヨー!!」

支援してくださる方々がいるからこそ、救われるのだと感じます。支援には色々な形があると思いますが、相手の心に寄り添うことこそ、本当の支援だと思っております。その心に自分の「善」の心で応えることこそが更生であり、人生を謳歌することではないでしょうか。

最後に、私の座右の銘を紹介します。江戸後期の米沢藩主、上杉鷹山の「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も成らぬは人の 為さぬなりけり」です。

「相手がいる」といって

N・Kさん

以前から、「MLPの相手を変えてほしい」という要望の注意がされていますが、「話が合わない」というのは、社会でも普通にあることです。

たとえ友人であって仲良しであっても、話が合わないこと、価値観の違いは出てきます。それでも付き合っていけるのは、

「付き合いをしていきたい」と思うから我慢したり、こちらから合わせたりする、ということをしているからではないでしょうか？

「どうせ出所したら終わる関係だ」とか、使い捨てに考えているところがどこかにないでしょうか？合わないのは仕方ないことですが、例えば、相手の趣味の話があつたとして、それを理解しようとして、「ひとつ話に乗ってみるか」と興味をもって尋ねたりしてみたでしょうか？書いてきてくれる内容のどこかを取り上げて返しているでしょうか？これは、MLPに限らず、双方どちらにも必要な姿勢だと思えます。

私も、手紙を誰かとやり取りして、書いた内容にひとつも触れられずに返信が来て、こちらがまた相手の内容に触れて返信を書いても、再び私の内容についてひとつも返ってくる言葉がないと、自分は気にして、気になってまた返事を書いても、相手は言いたいことだけ言ってくるということの繰り返しで、残念だったり、悲しい思いにとらわれたりすることがありました。

理解できる言葉、出来事がひとつもなく、合わなくても、例えば何かの本について触れていたら、その本に興味がなく

ても、尋ねてみれば、キャッチボールは続くはずで、広がる可能性もあるように思えます。「合わないから興味ない」ではなく、つながったのなら、まず興味をもって知る姿勢が必要であると思えます。時間が経って付き合いを重ねてみると、「合わない」と思っていた人も意外と、ということが、社会でも刑務所でもあるのではないのでしょうか？

うまく説明できず、偉そうではありませんが、私は自分が障害を心に持っているので、「どんな邪険にされるかがあつても、その人を知る努力をまずはしてみよう」、というのがベースにあるため、簡単に「相手を変えてくれ」と言う気持ちに少々理解できません。どうしてもダメだ、というようなやり取りを何度も重ねた上で、というのなら別ですが…。

先述で「使い捨て」と表現したように、軽く考えているところがあるのではないかという印象を受けます。

相手の言葉のひとつに触れて、取り上げてやり取りすることが、人に関心を持つ、「あなた」を見ていますよ、気にしていますよ、という気持ちの表れなのではないかと思えます。

理事長が、刑務所にいた時、差し入れられた本の感想を必ず書いて送っていた、

というのも、相手を、つながりを見ていたからではないか、大切にしていたからではないのでしょうか。好悪の感情は別問題として、「相手がいる」というのはそういうことなのだと思います。

相手を変えてもらい続けたところで、気が合わない、話が合わない、というのが続いて終わりになるかもしれません。それなら、今つながりを持っている相手と向き合つて、色んなことについて引つかりを持ってもらうように幅広く話を振る工夫をしてみたり、少しでも長く続ける努力を身につけると思つてしばらく付き合つてみたりしていくのも良いのではないかと思えます。

人との関わりがない中で

K・Hさん

これまでの私の所内生活は、入所時から数々の事犯で保護房の出入りばかりで、工場など一度も配役されることなく、ポーツと日々ポツンと独居生活を強いられてきました。

何の情報もなく、運動の毎日二回の集合時に三十分間、二〜三人での者と会話ができる程度でした。それも、やっとこの三年前から人との会話が許されたところです。それまでは、誰とも会話が許されませんでした。外部の者からの便りなど全くなく、心淋しい日々を過ごしてきましたが、つい一か月前にマザーハウスのことを聞き、さっそくお手紙を出させていただきましたところ、先日、資料が届きました。

私も、このまま社会復帰しても、また犯罪を犯すのではないかと日々悩み続けてきました。

マザーハウスたよりを読ませていただいたところ、なんと他の施設内からの感想や、心の変わりようなどが記されており、



風っ子さん

(ひなズキ)

それを読んでいるうちに、「これやーやっ
と出逢えたー」と感激しております。
私もマザーハウスを通して、これからたく
さんの言葉をいただき、また、ぜひとも
文通を通して感謝の心を学び、現在の
所内生活での苦しみ、悲しみ、悩み、また、
私の心の中の汚いところなどにカツを入
れていたいただきたいです。残り六年のうち
に悔い改めなければ、出所後もまた塀の
中に戻ってくる可能性が高いです。

マザーハウスたよりを読んでみると、中
には、文通の意味を大変誤解されてお
られる方が多いようです。せつかく文
通の機会をいただいているのに、誠にもっ
たいないことです。

今までの私なら、とてもとても人を信
用することなどできません！過去に、信
頼していた者に金銭面で幾度と裏切ら
れ、今回の事件でも、現金を盗られ、
その人間を殺めてしまい、今服役中です。
一人の生命を奪った者が、のうのうと
生き、しかも三度の栄養の整った食事も
受けて…。そんな殺人犯が、あと六年
ほどすれば社会復帰するのですよ！それ
も、この七年の間、散々、所内で暴れ、
汚い心のまま。自分一人だけの独居生
活にて、己の心の中が今どうなっているの
かなど、分かるはずもない状態で…。

そこで、つい一か月前にマザーハウスのこ
とを耳にして、早速手紙を出させていた
だいた次第です。なぜ、もっと早くマザー
ハウスと縁が持てなかったのか！これまで
の七年間は何だったのか！実にもったいな
い期間でした！

過ぎた日々は取り戻すことなどできま
せん。一日も早く文通の機会を得られ
るよう心の底より願っております。なん
だか毎日の作業をすこく楽しみながら過
ごせることかと思えます。

全ての行動は

結果を生み出す

一兵さん

第二次世界大戦時、英国首相のチャー
チルは、独国の圧倒的攻勢の中、「絶対
に、絶対に、絶対にあきらめるな」と言っ
て国民を励まし、英国に勝利を導きま
した。

また、皆さんがよくご存知のケンタツ
キー・フライドチキン創業者のカーネル・

サンダースは、鶏肉料理の買い手が見つ
かるまで、一千か所以上もの場所を訪
ね歩きました。私たちがフライドチキン
を美味しくいただけるのは、彼の忍耐力
の結果なんです。

発明家のエジソンは、電球の発明に成
功するまでに実に一万回近くも実験を
繰り返したそうです。もし彼があきらめ
ていたら、皆さんは本文を暗闇の中で目
を細めて読んでいたかもしれません。

本当に成功するには、「なんとしてでも
目標を達成するんだ」というひた向きさ
が必要なんです。「愚直の一念」と言っ
てもいいかもしれません。

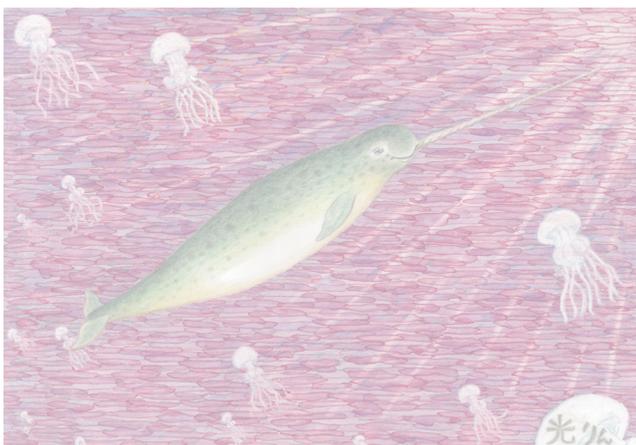
私の周りを眺め回してみても、多くの
人が目標を達成するほんのわずか手前
であきらめています。職業訓練や資格の
勉強、そしてスポーツ等々。どんなこと
があっても続けてほしい。自分がやってい
ることを本気で信じているならできるは
ず。

私が思うに、そもそも失敗というもの
はないと思っています。なぜなら、全て
の行動は結果を生み出します。その結
果は自分が求めている結果とは限りませ
ん。でも、結果は結果ですよ。

自分の結果をよく見て、上手くいつて
いない点を工夫して直せば、探し求めて

いる結果は必ず得られるはず。
私は、資格の勉強やスポーツに挑むに
あたっては、目標を細分化して設定し、
更にそれを小分けにすることで、ひとつ
ずつ目標を達成しています。

皆さん、刑務所にいるという事実を悲
観しないでください。自分の気持ち次第
で時間はいくらでも作れます。一寸でも
有意義な日々を過ごしましょう。



光りんさん

「突破口は、自分で開く！」

「自分が可愛い」と 「自分が好き」

(同じく、) 一兵さん

自分を好きになる、自分の生き方に納得している。これが、人として幸せになる為の最低条件だと思います。

自分を好きになれない人は他人を愛すことはできないし、愛されているという実感を抱けないと思います。言い換えれば、幸せになる為に努力することは、自分を好きになるうとしてしていることと同じことかもしれません。実際、夢や幸せに向かって努力している人は、「そんな自分が好き」「そんな自分でありたい」という思いが根底にあります。

「自分が好きだから幸せになりたい」のか、「幸せになりたいから自分を好きでいようとする」のか、どちらの場合でも、「幸せになりたい」＝「自分を好きになるう」という為の努力は惜しんではならないと思います。なぜなら、その努力だけは、いくら時間と労力をかけようとも、自分自身が相手なだけに、裏切られたり無駄になったりすることもないので。

ただ、「自分を好きになる」ということは、「自分の好き勝手に振る舞う」ということではありません。「自分を好きな人」は、自己中心のわがままな人は違うんです。他人の迷惑を考えずに好き勝手やっている人は、「自分が可愛い」だけです。「自分を守りたい」という子供っぽさは見えても、「自分が好き」という自立した大人の明るさは感じられません。自立した大人は、他人を蹴落としてまで「俺が」と主張する必要もないから、気持ちに余裕があります。

そんな風に、「お先にどうぞ」というかんじで周囲を見守っていると、中には、氣を利かせてくれる人がいてくれるものです。その氣遣いに感謝して、「私の周りにはいい人ばかりだなあ。私は恵まれている」と、さらに自分を好きになるはず。反面、目をぎらつかせ、肩肘を張っている人は敵を作ってしまうがちです。

「自分が可愛い」という思いが過ぎると、他人を傷つけてしまうことが多いですが、「自分が好き」という大らかさがあれば、その屈託のなさに惹かれて人が集まってきます。自分が可愛いのか、自分が好きなのか。その差は紙一重だと思います。でも、結果は正反対になります。長々と書き連ねてしまいましたが、是非、考えてみてください。

与える」とを

していないかった

T・Mさん

たより五月号の特別コーナー「マザー・テレサの言葉」で、「信じれば愛するようになり、愛すれば行動するようになる」という部分を読んで、「祈る」ということがいかに大切か気づかされました。祈りと愛はとても密接につながり合っているのだと分かりました。

「愛は家庭から始まる」とありました。私も、小さい頃から母の愛をたくさん受けてきました。ですが、「祈り」がありませんでした。私は母の愛を一方的に受け取るだけで、返すこと、人に与えることをしていませんでした。

愛からは遠い行動で人を傷つけてしまい、今に至ります。

今回のマザー・テレサの言葉で、「祈り」の大切さに気づけたことは、自分の中で大きな意味を持つと思います。この気づきを与えられたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

可愛いミニオンのTシャツを着た主人に、「今日はどこに行くの?」と聞くと、「再犯したSさんがいる警察署に行くとのこと。そのTシャツで!」? 説得力なさすぎだろう…(笑)と、心の中で思いながら見送りました。

帰宅した主人に、「どうだった?」と聞いたら、「きちんと話をしたよ。まったく。警察の人も笑っていたよ」とのこと。警察の人が笑ったのはきつと、腹の出たおじさんがミニオンTシャツを着ていたからだ、密かに私は思った(笑)。



看護師 中谷先生による

健康相談窓口

頭痛

皆様、いかがお過ごしですか。

梅雨のじめじめとした季節で、体調を崩されている方もおられるのではないのでしょうか？

今回は、受刑者の方のご希望で、頭痛について説明をしていきたいと思っております。

頭痛は、大きく分けて二種類に分けられます。

一つ目は、一次性のもので、年齢、性別問わずに、誰もが発症する可能性があります。二つ目は、何らかの病気が原因で起きる頭痛です。

ここでは、一次性頭痛について詳しく説明します。

一次性頭痛

☆緊張型

精神的なストレスや、長時間のデスクワークなどの同一姿勢によって血行が悪くなり、首や肩の筋肉が緊張してしまうことで起こります。

・主な症状：後頭部を中心に頭全体が締め付けられるような重苦しい痛みです。

・対策：入浴やホットパックなどで首や肩周囲を温めてください。ストレッチやマッサージをして筋肉をほぐしましょう。首の回転運動も効果的です。

☆偏頭痛型

二十〜四十歳代の女性に特に多くみられます。ストレスや疲労、女性ホルモンが関与していることが多いです。

・主な症状：ズキズキと脈打つような強い痛みで、光や音に敏感になったり、吐き気を伴います。頭や体を動かすと、さらにひどくなる場合があります。

・対策：頭痛時には、入浴、運動、マッサージなどは厳禁です。痛み場所を冷やし、静かな部屋で横になって休みましょう。

☆群発型

多くは男性ですが、発症する人数は少なく、まれなタイプです。原因は分かっていませんが、体内時計が関係していると考えられています。

・主な症状：「目をえぐられるような」と表現される激しい痛みです。一度症状が始めると、一〜二か月の間、毎日のように同じ時間に頭痛があらわれるようになります。

・対策：専門医の診察を受けましょう。

痛み止めの使用ですが、毎日使用するのでなければ、痛みが強くなりすぎる前に使用して欲しいと思います。「薬には頼りたくない」という思いもあるかもしれませんが、一時的なことですので、お早めに。

上記に当てはまらない、頭をガンと殴りつけられたような激しい痛みの場合は、脳出血などの二次性頭痛の可能性があります。

私自身、睡眠時間が三時間もない日が続くと、偏頭痛型の頭痛があり、嘔吐を繰り返します。「あつこれはまずいなあ」と思ったときには、早めに鎮痛薬を飲みます。それでないと、嘔吐でせっかく飲んだ痛み止めも出てしまい、痛みが更に悪化します。

痛みの対応は人それぞれですが、一度「痛い」という思いをすると、それが脳に残ってしまいます。様々なパターンが重なる時、そのときの痛みを脳が思い出して、頭痛を感じることもあるようです。

二次性の頭痛ではない頭痛に関しては、自己コントロールができるかと思えますので、自身のパターンを見極めてご対応いただきたいと思います。



S・Mさん

ご寄付ありがとうございます！

5月16日～6月15日の寄付金

合計：408,036円

(内 愛のプリズム宣教基金：16,100円)

愛のプリズム宣教基金 ご協力の御願い

マザーハウスでは、キリストの愛を熱く伝える雑誌の一つである『カトリック生活』（ドン・ボスコ社）（月刊誌）を矯正施設の人々に贈る運動「愛のプリズム宣教」を実施しております。

この運動は、理事長自身の当事者体験から、書籍による癒しが受刑者の回復に大きな役割を果たすと信じて立ち上げたものです。矯正施設の方々が、『カトリック生活』を通してキリストと出逢い、学び、触れ合ってくださいと願っております。

愛のプリズム宣教基金

*一口1000円から、何口でも受け付けております。

〇 ゆうちょう銀行 〇

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）

口座名称：カトリック生活・愛のプリズム基金

預金種目・口座番号：当座・0696776

郵便振替口座：00170-4-696776

編集後記

こんにちは！お読みくださりありがとうございます。

「今月で講演後アンケートを載せきる！！」と決心したものの、内容が溢れて24ページ内に収まらず、試行錯誤してようやく完成しました！

たよりを毎月作っていると、発送スケジュールに追われて、編集の「作業」として考えてしまいそうになるのですが、いざたよりを作ると、作っている間はすごく燃えるものを感じるし、皆さんからの喜びのお手紙を読むと、「たよりは大切な役割を担っているんだ！」と励まされます。妥協はできない！力を注いで作るぞ！と毎月自分を奮い立たせて、今月も徹夜を経て無事完成しました！笑

計画性がないと最後が大変ですね。来月号こそは「毎日コツコツ」作戦でスマートに完成させたいです！来月号もお楽しみに！

マザーハウスたより編集局

つぶやき！

昨年からは教会に通い始め、今は月曜日に聖イグナチオ教会の英神父様の入門講座に通って勉強している。イエス様は、罪人や徴税人と食事をして、幼子を大切にしている。聖書を知れば知るほど、キリストは弱い人達の為にあると書いてある。それならば、教会はポロポロの服を着た病んでしまった人で溢れているはずである。なのに、教会にはたくさん裕福そうな人達がいる。何故だろうと不思議に思う今日この頃です。

(出所者Oさん)

行事予定

▼7/19 16:00～

國學院大学にて、講義

▼7/20 8:00～

京都保護観察所 観察官と面談

▼7/20 13:00～

岩波書店にて、

元少年院院長・小説家の二人と対談

▼7/21 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホールにて、

VIP プリズム（対談「回復について」）

▼7/23 10:00～

東京学芸大学にて、講義

▼7/26 16:00～

立正大学にて、講義

▼8/6 18:00～

APS 研究会 (in 京都)

▼8/7 18:00～

当事者ミーティング

マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

* 製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX : 03-6659-5270

メール : maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格 : 粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g (1回分) … 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま(順不同)☆

カトリック茅ヶ崎教会 / カトリック北仙台教会 / カトリック所沢教会 / カトリック中和田教会 / カトリック布池教会 / カトリック東山教会 / カトリック浜松教会 / カトリック新子安教会 / カトリック菊名教会 / カトリック碑文谷教会 / カトリック東仙台教会 / カトリック春日部教会 / クリスト・ロア宣教修道女会 / カトリック足利教会 / カトリック神田教会 / カトリック松戸教会 / カトリック戸塚教会 / カトリック桃山教会 (平和環境部) / カトリック大分教会 / カトリック西千葉教会 / カトリック下井草教会 / カトリック新潟教会 / 日本カトリック神学院 / ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

* 獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX : 03-6659-5270

メール : motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR →)



入手方法 : 会員の皆様や、ご寄付 (5000円以上) くださった方々、

その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

(絵画 + 言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、
デザインはランダムです。)

* デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

(ポストカード/封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円)

ホームページ : <https://npo-motherhouse.amebaownd.com/> (QR →)



マザーハウスたより7月号

2018年7月15日発行 発行責任者 : 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ たよりブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ (便利屋業)

* 元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL : 080-4614-8508

FAX : 03-6659-5270

メール : lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金 (きしゃぽん)

* 書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先 : 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

(マザーハウス事務所に送らないようお気を付けてください)

TEL : 0120-29-7000

Webコンサルティング

* WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、
マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール : sepi@websepi.com (QR 右 →)

ホームページ : <http://websepi.co.jp/> (QR 左 →)



ホームページ ↑ メール ↑

カウンセリング

* 当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的
なカウンセリングを行います。

メール : iwazakifuusui@gmail.com (QR →)

価格 : 30分5000円より

ホームページ : <http://profile.ameba.jp/fengshui0708/> (QR →)



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL : 03-6659-5260

メール : info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ : 「NPO マザーハウス」で検索ください。(QR →)



☆ご支援☆

口座名 : 特定非営利活動法人 マザーハウス (トクヒ) マザーハウス

郵便振替口座 : 00170-0-586722

みずほ銀行 : 新宿支店 普通口座 2376980

正会員 : 一口5000円 (年会費) 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員 : 一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援 : ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先 : 〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

(担当者 : 江口 TEL : 080-4057-2518)